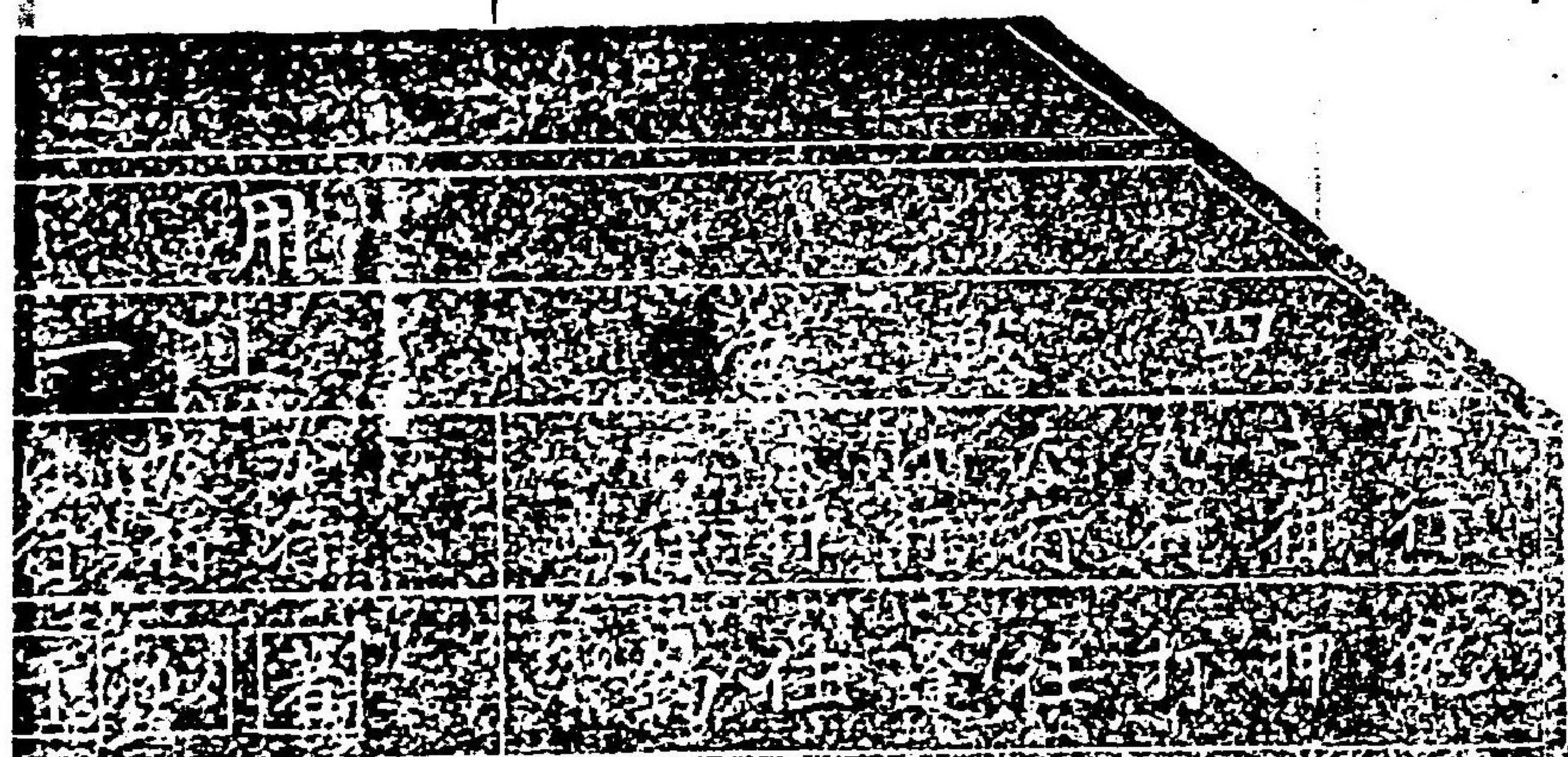


詞辭經緯圖解

815.4
H826

815.4 H 826A

詞辭經緯圖解



噴 煮 簾	あさひらん あたらん	産 咀 頼 疎	忍 飼 買 添	勝 立 斷 持	代 貸 平 鳴	解 書 置 和
預 搜 索 映 ソリ	うこあせり	去 偽 語 薰	忌 沈 好 汲	分 育 保 穿	通 于 習 潤	吹 急 輝 築
怒 賣 怠 奢		進 涼 添 屈	浮 祝 疑 潤	は な つ 獨 こ	餘 貸 返 諭	背 續 研 退
改 い ま じ て あ る	さかのほる	買 休 奪 争	い つ く い む	ま つ り こ つ	記 あ る し め す	た ひ ら く た し ら く
商 あ へ ら へ		な ぐ さ め	す き む	か い こ ま れ	志 お ひ や か せ	ひ ま ま つ け ま り め け
た ら し ま れ		か い こ ま れ	た ら し ま れ	た ら し ま れ	た ら し ま れ	た ら し ま れ

此連用詞を断止をも兼たり故お下げて記す也

將來格 過格 現在格 現在格 未過格 將來格

將然詞 連用詞 断止詞 連體詞 已然詞 請願詞

體言、言用言、詞
てには、辭の字を用ふ

(此段より下段の辭を
かゝる格とあるなり)

用詞種、第一段と第二段との差別
かゝる作用と形狀との二つに別る

(三心居れ、轉用體言と成る)

(不截斷を断止せし、終る時、聞聲けられ)

(上の格と下りの格とが、かゝる格とある)

(輕き辭を、上より、終る
なりと、下りの詞を、引出さ
ちなら、おまを、さす)

(重きは、上より、付
輕きは、下より、付)

此三體
凡令之
在在
改め
事也
改め

正
兄

国立国会
26.9.11
図書館

245430

十 用 詞

作	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行	行
老	恨	絶	推	大																

詩 畫活過
 閉もみち
 延學
 浴恨試
 報
 ひきまる

八下二段ありと云
 説もあれど舊ふ
 よれりとなり

煮 噴 蕪
 かみ
 鑄 沃

代貸平鳴
 通于習混
 勝立斷持
 此等者類を尋問し
 忍飼買添
 産咀頼疎
 川燠居觸
 あきららん
 おたらん

き なぎよき
 あねぢ
 生侘傳
 うーろみ
 い
 む
 用

せーとーとーとハ紛き安ーハさ行四段連用のーと
 さ行下二段連用のせふ來の辞連體辭來のーを掛ーあり
 心得べー

此連用詞を斷止きも兼なり故下ケて記き存也
 試かへりみ
 つきふる急坐

分育保穿
 學問遊洗
 忌沈好汲
 去偽語薰
 預 搜 刺 映 ヲリ

俗きん
 なるよき
 いきつ
 あづらふ
 うとむ
 悔 卧

なるよき
 いきつ
 あづらふ
 うとむ

うしろ
 みる
 む
 安心

はなつ獨らつ
 浮祝疑潤
 進涼漆屈
 怒賣怠奢
 うこあそる

取そほつる
 ぬぎらふ
 たむる
 凍コル

ぬぎらふ
 たむる

ゆめみる

買休奪爭
 つくしむ
 すきむ
 改いきとふる
 さかのほる

よれろつれ
 あたむれ

よれろつれ
 あたむれ

む

高あへしら
 なぐさめ
 まどろめ
 かーこまれ
 つーれ

む

む

む

轉
 此等者類を尋問し

詞 十 種 活 用 圖

種 活 用 之 種		種 活 用 之 種		種 活 用 之 種		種 活 用 之 種		種 活 用 之 種		種 活 用 之 種		
一 段 下	一 段 上	二 段 下	二 段 上	三 段 下	三 段 上	四 段 下	四 段 上	五 段 下	五 段 上	六 段 下	六 段 上	
か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	か行	
来	来	来	来	来	来	来	来	来	来	来	来	
こ	か	れ	え	め	へ	ね	て	せ	お	あ	ひ	
	か 記 証の見當らぬ ありき	れ 思 荒産溺	え 肖 崩榮	め 埋 頼屈諫	へ 延 歴衰加	ね 重 兼束連	て 浅 伏産指	せ 當 出企撫	お 受 ケ略	あ 觸 ゆり	ひ 報	ひ 延 學
こ	さ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	お	あ	ひ	
	さ 此ハ来の 一ハ来の 一ハ来の	れ 陰 晴忘待	え あ えきえ	め 霞 進深初	へ こ きまへ	ね た が祿	て 立 ひいで	せ 合 見せ	お 助 焼感缺	あ 用	ひ 生 佗傳	あ 閉 もみち
く	す	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	り	り	い	み
	す この二辞ハ 受ず又此 為と同一 格を来の	る 俗 えると云	ゆ ま きゆる	む 止 治ゆむ	ふ さ すらふ	ぬ は ぬがぬ	つ ま うづ	す 預 退告更	り 悔 臥元	り 悔 臥元	い う とむ	み あ づらふ
く	す	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	り	り	い	み
	す と らひら	る 参 らする	ゆ ま きゆる	む 止 治ゆむ	ふ さ すらふ	ぬ は ぬがぬ	つ ま うづ	す 預 退告更	り 悔 臥元	り 悔 臥元	い う とむ	み あ づらふ
れ	せ	れ	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	り	り	い	み
	せ のを受 て其他 へ受けず	れ 使 のけれ	ゆ 己 かゆれ	む 己 かゆれ	ふ 己 かゆれ	ぬ 己 かゆれ	つ 己 かゆれ	す 己 かゆれ	り 己 かゆれ	り 己 かゆれ	い 己 かゆれ	み 己 かゆれ
こ	せ	れ	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	り	り	い	み
	せ 詞の無 き印あり	れ 詞の無 き印あり	ゆ 詞の無 き印あり	む 詞の無 き印あり	ふ 詞の無 き印あり	ぬ 詞の無 き印あり	つ 詞の無 き印あり	す 詞の無 き印あり	り 詞の無 き印あり	り 詞の無 き印あり	い 詞の無 き印あり	み 詞の無 き印あり

下二段ありと云
説もあれど舊ふ
よれりとなり

せーとーとハ紛き安
さ行下二段連用のせふ来の辞連體辞來の
心得

此段を
加へ
ず云も
あり

用 八 種

種 三 詞 狀

活 段 三 格 種 活 段 二

不行 去 不行 來 不行 來 不行 來 不行 來 不行 來 不行 來

露 明 静 悲 痛 深 淺 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

鏡 清 安 樂 高 低 受 待 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

鏡 清 安 樂 高 低 受 待 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

のどけく むづつけく あたけく

月清み 一づか 又轉ドて げトナル

赤白早危 甘遍暴青猛 潔痛幼暑寒 憂疎正善惡 多少堅辛痒

惡新美 喜忙夥悔苦 貧煩惜欲親 皆さへ掛ル

のどけかれ

體言受辭 將然詞受辭 連用詞受辭 斷止詞受辭 連體詞受辭 已然詞受辭

同 狀 詞 二 種 活 有 行 有

之種九十七にて

將 去 竟

體 文 辭

將 然 詞 受 辭

連 用 詞 受 辭

斷 止 詞 受 辭

連 體 詞 受 辭

已 然 詞 受 辭

受符ありの類ハ 此行より出づ 受け辭の類の

ら さりハスアリ之不 たりハテアリ之竟 なるハニアリ之

り 此類皆是より出づ 侍るハまひて

3 侍るハまひて 居るハ居りて

れ 此筋を引上げて記したハ夫故あり

れ めてたけれ 糸たけれ うれたけれ

くき活のくより轉りてくありノ類辭のずより轉りてずあり雜の辭のてより轉りててあり雜の辭のにより轉りてはありとあれるの各々約りてからかりかるかれさるさるさるたれあたらなりたるたれあたらありあるあれ等の辭となり又みえありのめりてして終へぬれより轉りてあけらんあけりあけるあなれの如く活詞の後

- 楽シ 高 低

此之き活小別を 此ハ此の如く五ツ あり味ひて知るべし

くハみニ轉ス けハカニ轉ス

月清み づかハ又轉下て

赤白早危 甘遍暴青猛 潔痛幼暑寒

惡新美 喜忙夥悔苦 貧煩惜欲親

のどけかれ ぐあれの 略之

漢語ハすく此體言 受けふて受る例あり

此去ハ三段活も同ト 又四段活往も同ト

傍のちての字ハ轉りと

此二辭の詳解別記あり精微の考ありされど専門家の事ゆて普通ハ附録に記さる

種之六 詠

状

不可如來

如○を以てみたるハ形状詞ハ其のトを受ル辭トモ
ハ多クの略あり此にハ確のトナリ

ま〜と〜トハ清濁ハテ語意違へリ清ハ將の將然辭あり心得べし

ハかく半圓を肩らせたるハ作用形状共ハ廣く通れる辭之又此印おきハ作用詞のトを受る辭あり

此段の令のせず被の
え少等を四段活のみ
を受て其他ハ受けず
令のせずせず被のら
えらゆ等右の二活
をば受す〜て其他の
諸活を受く
但上段の活の着似見の三
詞はせざる無き受く

此ハ延てケリとあり紐鏡三段俗言ハた之清むとがと濁るハ願の連用あり

四段活一種と行のトをバ〜ハカフ二辭ハ受ず又下二段活為同格をバ〜ハカのみ受けて其他ハ受ず

詠の總數ハ三百三十九あり體言受九十六將然受五十六
連用受七十八斷止受三十九連體受五十四已然受十一
請五ノあり是用おけれど記す

此印ハ定格をもつて最稀小用ひたる辭トモ

Grid containing various characters and symbols, including circles and kanji, used for linguistic analysis.

詠

歌

俗

三

四

ハヤ

かく半圓を肩らむなるハ作用形状共お廣く通れる辞又此印おきハ作用詞のミを受る辞あり

此段の令のせず被の
えゆ等も四段活のみ
き受て其他ハ受けず
令のちせきまづ被のら
えらゆ等を右の二活
をば受ずして其他の
諸活を受く
但上二段の活の着似見の三
詞をばせと等受ても受く

なむふ雜のおむあり心りや

如此記せるハ其段の用言より加ハなる辞をへて續くを知らせたる也

如此傍ふ後か勿ゾの字を附けたるハ其意を知らせたる也

此印ハ定格をよづして最稀お用ひたる辞ども也

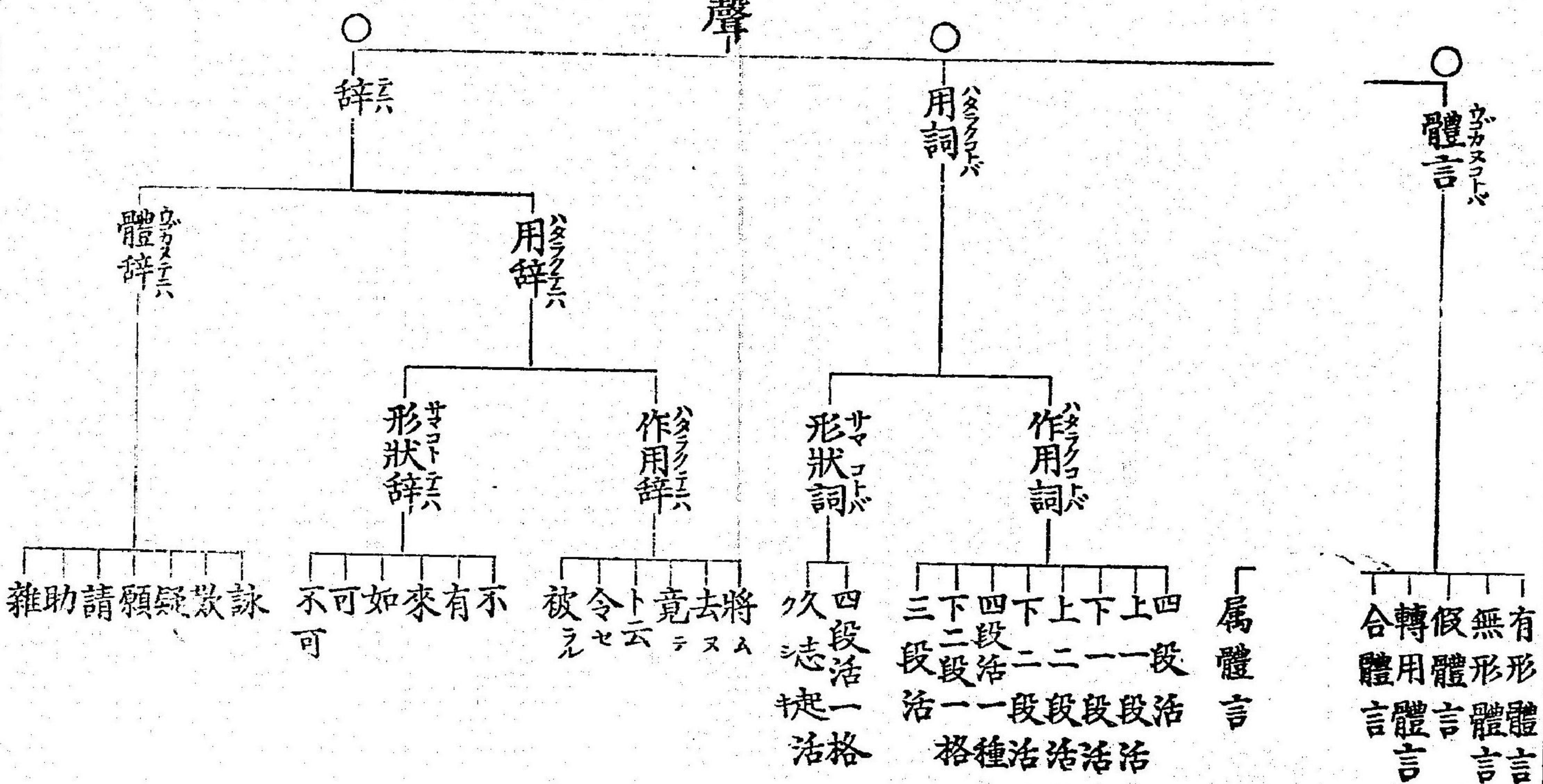
凡事ヲ重テ云ヒモテニクハ連用言
モテ重テ云ク例ナレバありト云時
ハハリニテ重テ云フ

ハヤ

夫礼人の口より出る一つの音聲種々み替りて五十の音聲とある。之を五十連言と云ふ。此五十音種々み重り。種々み活きて。數萬の言語

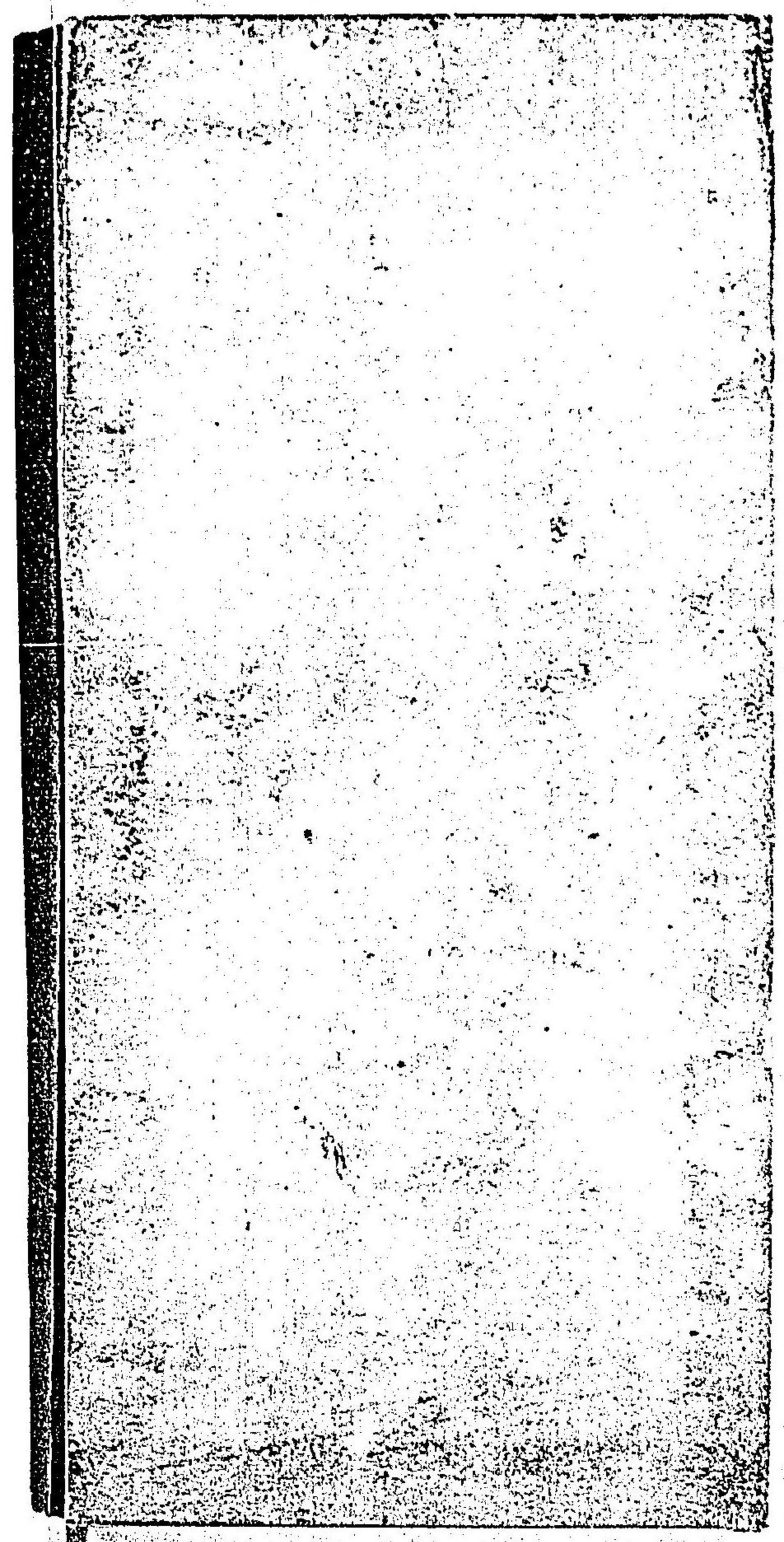
とある事。平田翁の本辭經ふ説れたるが如し。此の如く。言語數萬あり。之を類別すれば。三つの外なき。則體言と用詞と辭とあり。されば此三つの別ちを知るを。語格學の初歩とす。仍て其の順序を。假し五級に分ちて。先づ言詞辭の三つを分つを初とす。次小體言を六種に分つを第二とす。次小用詞を十種に分つを第三とす。次小辭を十九種に分つを第四とす。次小體言用詞辭を皆符印して。學ぶを第五とす。右三種の内體言を大別すれば六種あり。此六種各又六種小別れて。三十六種小別たれとす事。真澄の鏡同圖解ふ。述べられたるが如くあれど。普通の者ハ。先つ此六つを知らむ。事足るべし。用詞ハ作用と形状との二つあり。作用ハ八種なり。形状ハ二種あり。則圖の如く。此十種を言語上必用あり。能く研究して心得べし。次小辭なり。辭も又用辭と體辭との二つあり。體辭も只六種あれども。用辭ハ作用辭と形状辭との別ありて。作用辭六種形状辭六種ある事圖の如く。用詞辭ともに緯ふ五段の差別ある事圖の如く。則將然詞連用詞斷止詞連體詞已然詞の五つなり。其五段の内斷止段連體段已然段の三段ハ。ひも鏡の三轉あり。ひも鏡ハ。おもたゞ。そのや何と。そのかりあるを。其の中の何を略き。おんを加へられたる事。圖を見て知るべし。のがの二字ハ連體も。斷止段も。かゝる事あるあり。詳細ハ經緯圖解を見て知るべし。

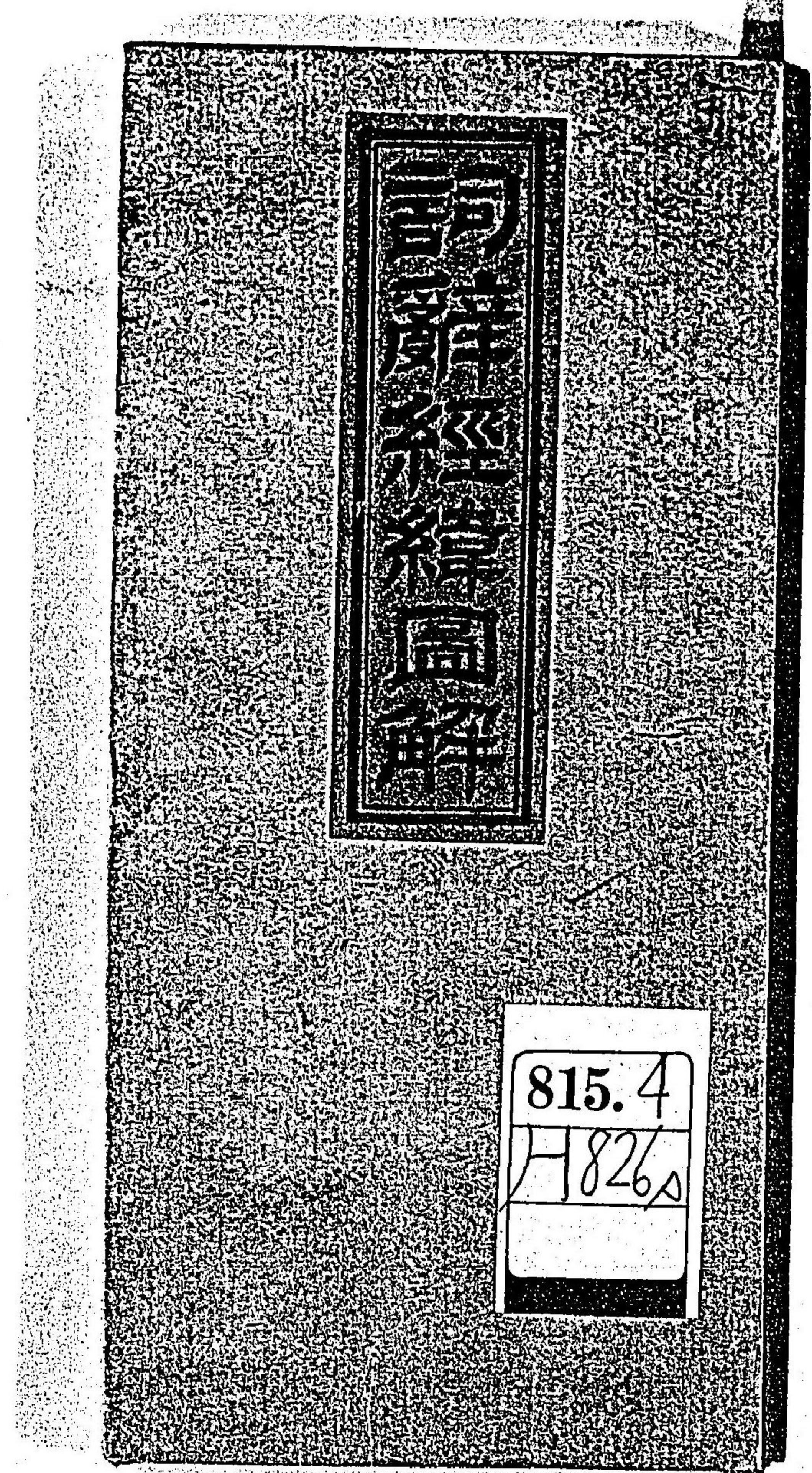
○音聲



明治二十五年
五月二十五日
印刷
明治二十五年
五月二十五日
出版 非賣買

神奈川縣相模國長柄郡湯本村
著者 福住正兄
全縣全國全郡小由原町
發行者 二見正三
東京市本郷區元町一丁目九番地
大洲學會印刷部
印刷者 鈴木長藏





詞辭經緯圖解

815.4
H826s

078387-000-9

815.4-H826s

詞辭經緯圖解

福住 正兄/著

M25

DAC-2051

